



## 年頭の御挨拶

辰巳会会長 鈴木治雄

新年明けましておめでとうございます。

二〇〇七年は自然災害の発生が前年に比べて相当増えてきた様に思います。大気中のCO<sub>2</sub>量の増加がこの災害発生に大いに関係しているのが現状で、年を経るに従ってなおさら増加するのではないのでしょうか。人口が増える事によるものと生活の向上により地下資源の乱用が重なり、CO<sub>2</sub>の量は計り知れない程影響しているものと考えられます。

この様な阻害物質の増加が、我々が考える以上に地球環境の変化を大きくし、自然災害を増やしていると考えざるべきではないでしょうか。自然災害の増加は国々の実情によっていたしかたないとしても、災害発生時に対する救助対策を現在のテロ対策以上の規模で各国はまず国際救助部隊作り、災害が発生した時にはすぐに出勤出来る手筈を整えておくべきではないでしょうか。これからは災害時に各国相互の救助活動が組織的に展開出来る様になることを望みたいのです。

又、二〇〇七年の世情を表す一字に「偽」が選ばれましたが、まさに「偽」によって支配された年と言ってもいい位「偽」が世の中を騒がせたと思います。上級と思われた店から一般の店まで、色々と手を換え品を換えての方法で世間を騒がせた年だったと言っても過言ではないでしょう。私の人生八十数年でここ数年の世の中が急速に悪くなって来たのは何が原因でしょうか。個人的な考えでは、教育の退廃とそれに伴う家族教育の低下が考えられます。戦後（一九四五年）から核家族となる世代が進み、昔から引き継がれた世の中のしきたりが核家族によって伝わらなくなったことから「赤信号、皆で渡れば怖くない」の無責任な考え方が世の中に蔓延し、公序良俗を破壊してしまつたのが、今の世の中ではないのでしょうか。これからの教育は一人一人が何事にも責任を持って事に当たる様にすべきだと思います。

## 全国大会報告

平成十九年五月二十四日(木) / 於：生田社会館「菊の間」(神戸市)

平成十九年の全国大会は、鈴木よね刀自が昭和十三年五月六日に亡くなられて七十年になり、新緑がまばゆい生田神社におきまして七十年霊祭を執り行い、このあと懇親の宴となりました。

### ○鈴木よね刀自七十年祭 霊祭

五十年祭を祥龍寺で執り行って二十年が過ぎ七十年祭の会場となるこの生田神社は、よね刀自が毎月一日十五日の参拝を欠かさなかつた神社でした。また、昭和四十九年の金子直吉翁三十年祭の会場でもありました。神戸の中心街三宮に程近く、今でも参拝者の絶えることのない神社です。

鈴木よね刀自霊祭の神殿は当社会館に設けられ、神殿正面によね刀自の胸像写真を掲げ、神殿両側には辰巳会、太陽鋳工(株)社長鈴木一誠様、双日(株)社長加瀬豊様、特別顧問西村英俊様の生花が供えられ、参列の皆さんが

着席されて、霊祭の開始が整いました。定刻十一時より生田神社祭主の祝詞奏上が流れ、厳かに式典が進行して玉串奉奠、辰巳会鈴木会長を始めとして参列者全員が玉串の奉奠をされ、鈴木よね刀自七十年祭は滞りなく終了しました。ここで参列者一同、神殿前に整列して写真撮影をする。

### ○懇親の宴

宴席は霊祭が執り行われた同じ会場の三階「菊の間」、準備が整うまで会場を退出して、しばしの間待つことになりました。正午となり、懇親の宴始まる。

安東幹事長の開会の辞では良好な天気にも恵まれたことを喜び、先ほどの霊祭に参列いただいた皆様に謝意を述べられました。また、平成十八年十二月に逝去された神戸商工会議所元会頭・神戸製鋼所元社長会長牧冬彦様の「お別れの会」の故人の手柄について、靖国神社問題な

どの話しがありました。

辰巳会会長鈴木治雄様のご挨拶では、祖母にあたる鈴木よね刀自の七十年祭執行と参列の皆様へ感謝の言葉を述べられ、亡くなられた昭和十三年当時を思い出されての話をされました。次に松下幹事の会務報告があり、物故者法要などを報告されました。

いよいよ宴に入り、辰巳会東京支部長の荒木正雄様のご発声で乾杯をする。

宴も進み、遠路東京より出席下さった双日(株)の西村特別顧問(元社長会長)のスピーチになり、今日の双日のルーツは百年から前の鈴木商店にあり、新しい双日の事業が着実に前進し、業績も向上する力強いお話しでした。歓談もたけなわの中、鈴木商店の研究をされている大塚融様のスピーチでは、昭和十三年お家さん(よね刀自)の葬儀を撮影したフィルムがNHKに所蔵されているのではと、また日商(日商岩井)の高畑誠一さんについて出版社の執筆依頼で書上げたことなど、知られていない貴重な盛り沢山のお話でした。

今年は盛大な大会となって、宴席の歓談も終わりになきところでしたが所定の時間が迫り、楠瀬幹事の閉会の言葉で終宴になりました。



### 平成十九年度 全国大会 式次第

平成十九年五月二十四日(木曜日)

生田神社社会館 三階「菊の間」

司会進行役 金野 事務局

一、開会の辞

安東 幹事長

一、会長挨拶

鈴木 会長

一、会務報告

松下 幹事

宴

一、乾杯

荒木東京支部長

テーブルスピーチ

一、閉会の辞

楠瀬 本部幹事

以上

### 平成十九年度 全国大会 御出席者名簿

(敬称略)

平成十九年五月二十四日(木曜日)

生田神社社会館 三階「菊の間」

鈴木 治雄	池田 泰雄	安東 浄
鈴木 孝子	藤野 欽司	東條 佳子
高畑 宗一	金子 峻	坂東 みどり
高畑 美紀	松下 重男	安東 恒子
大谷 淳子	今村 三郎	柳田 辰巳
荒木 正雄	月岡 定康	楠瀬 正明
西村 英俊	小原 秀吉	小野 晶子
須藤 欽吾	金子 孝蔵	以上 二十九名
宮永 悠紀雄	金子 ソメエ	(事務局)
大塚 融	西岡 嘉子	金野 和夫
稲田 隆	西岡 義久	中谷 尚美